

令和5年度 学校経営計画

1 学校教育目標

自立と社会参加に必要な力を身に付け、社会の一員として健康で心豊かに生きる人を育てる。

《校訓》 明るく 仲よく たくましく

2 学校の特徴

本校は知的障害や肢体不自由のある児童生徒を対象とし、一人一人の自立と社会参加を目指して教育を行う特別支援学校である。医療的ケアが必要な児童生徒には看護職員を配置し、通学して教育を受けることが困難な児童生徒には訪問して教育を実施できるようにしている。

- (1) 「個別の教育支援計画」や「個別の指導計画」を基に、小学部、中学部、高等部が相互に連携し、一貫した連続性のあるきめ細かな教育活動の実践に努めている。

<小学部> 日常生活に必要な基本的生活習慣を身に付け、健康な心身を育み、主体的に活動に取り組めるようにする。

<中学部> 生活に必要な基礎的な学力と体力の向上を図るとともに生活経験の拡大に努め、社会参加への意欲や態度を育てる。

<高等部> 卒業後を見据え、生活する力や働く力を育てるために必要な知識・技能・体力を身に付け、社会参加へのさらなる意欲・態度を育てる。一人一人に応じた進路支援を行うとともに丁寧なアフターケアを行う。

- (2) 地域の学校との交流及び共同学習や校外学習、地域奉仕活動等を実施し、社会性の育成を図っている。
- (3) 砺波地区における特別支援教育の「地域のセンター校」として南砺市、小矢部市の幼保、小、中、高等学校等からの教育相談や支援の充実に努めている。
- (4) 児童生徒、家族、地域のニーズに応じ、医療・福祉・労働等の関係機関と連携した支援を行っている。

3 学校の現状と課題

本校では、障害の多様化や重度重複化が進む中、生活経験の拡大や将来の自立と社会参加に向け、児童生徒一人一人の実態や教育的ニーズに応じた教育実践が求められており、それぞれの障害に対する教員の専門性のさらなる向上が必要であると考えている。保護者や家族、関係機関、地域の協力を得ながら「個別の教育支援計画」や「個別の指導計画」の活用を進め、担当者間で連携を図りながら知的障害や肢体不自由それぞれの障害の特性に応じたきめ細かな教育活動の実践に日々努めている。

今年度は、新型コロナウイルス感染症予防対策を継続しつつ、学校内の活動ことらわれず児童生徒の障害特性に応じた体験的な学習活動が十分に行えるようにしていくことが大切である。また、登下校を含む学校生活における安全の確保と健康管理を基本としながら、より豊かに主体的に卒業後の生活が送られるように、児童生徒や家族の教育的ニーズを適確に捉え、ICT 機器や教材を利活用し、適切かつ丁寧に学習指導や生活指導、進路支援を行っていくことが大切であると考えている。また、肢体不自由のある児童生徒に対応するための施設設備整備を継続的に進めるとともに、個々の障害や疾病に起因し突発的に発生する事態に備えて、適切かつ速やかな対応がとれるようにしていくことが必要である。

また、児童生徒の社会参加につながるように、保護者や地域の人材と連携して PTA 活動の充実に努めたい。

さらに、引き続き特別支援教育のセンター校として、地域の学校に対して、専門性を生かした支援や特別支援教育の有用性について理解啓発を図る役割も果たしていきたい。

4 学校教育計画

項目		目標・方針及び計画	
1	学習活動	目標	<ul style="list-style-type: none"> ○学習指導要領を踏まえた年間学習指導計画の作成を通して、小学部から中学部、高等部へと、自立と社会参加に向けて一貫した教育を推進する。 ○個々の障害の状態や特性を十分に把握し、キャリア教育の視点を踏まえ、多様な教育的ニーズに対応した適切な指導内容や方法を工夫する。 ○「主体的・対話的で深い学び」の実現に向け、授業研究を通して、教員の指導力の向上を図る。
		計画	<p>〈小学部〉</p> <ul style="list-style-type: none"> ○全ての学習活動の基礎となる自立活動において、学習指導要領解説「自立活動編」に示されている「流れ図」の作成を通じて、より効果的な実態把握や一人一人に応じた教材教具や体的な指導内容を設定し、自立と社会参加につながる授業実践を行う。 <p>〈中学部〉</p> <ul style="list-style-type: none"> ○将来の自立した社会生活を見据え、生徒自身が体力の向上を目指して、主体的に取り組める運動やトレーニングの内容、評価の仕方について研修を行い、体育や日常生活の指導等の授業等で実践する。 <p>重点1</p> <p>〈高等部〉</p> <ul style="list-style-type: none"> ○生徒の生活がより豊になるように学習教材や指導内容の蓄積を図るとともに、教員個々がこれまでに作成・活用してきた教材を年間学習指導計画に合わせて系統立てて整理する。その上で、一人一人の生徒の課題に応じた学習を積めるように授業改善をするとともに学習単元の充実を図る。 <p>重点2</p> <p>〈研修〉</p> <ul style="list-style-type: none"> ○学んだことを日常生活に生かせる「主体的・対話的で深い学び」の実現を目指し、各教科における授業研究に取り組む。児童生徒の日常生活を想定した学習活動や手立てについて検討し、単元の充実を図るとともにこれまでに作成した「授業づくりのポイント」及び「学びの姿図」や今年度実践しながら作成する「深い学びにつながるポイント」を活用しながら、子供の姿を見る目を養いながら授業を改善する力を高めていく。
2	学校生活	目標	<ul style="list-style-type: none"> ○児童生徒が安全・安心な学校生活を送るために、児童生徒の感染症予防の意識や予防スキルの向上を図る。また、感染や事故等を未然に防いだり、緊急時や災害時に迅速な対応をしたりすることができるよう、教職員の感染症や防災等に対する危機管理意識や対応力の向上を図り、保護者と情報を共有する。
		計画	<p>〈保健〉</p> <ul style="list-style-type: none"> ○新型コロナウイルス感染症拡大防止の対策を継続するとともに、緊急時や災害時に迅速な対応ができるように、感染症対策や校内救急体制などの各種マニュアルの見直しを行う。 <p>〈生徒指導〉</p> <ul style="list-style-type: none"> ○教職員の災害時の対応力を養うため、医療的ケア実施中の児童生徒の避難誘導の訓練を行う。 ○親子で防災に対する意識を高めることができるよう、保護者が参加できる防災教室を計画する。

3	進路支援	目標	<p>○生徒や保護者が早い段階から卒業後の生活や進路先について考えられるようにし、児童生徒の進路支援について保護者の理解と協力が得られるようにする。</p> <p>○進路支援の取組を効果的に進めるために、地域の障害福祉サービス事業所に関する情報を集約する。</p>
		計画	<p>〈進路支援〉</p> <p>○生徒や保護者がより具体的なイメージをもって進路先について考えられるよう、地域の障害福祉サービス事業所に関する情報を収集し、卒業後に生徒が利用する可能性が高い砺波圏域障害福祉を中心にサービス事業所の一覧を作成する。</p>
4	特別活動	目標	<p>○望ましい集団活動を通して、協力してよりよい生活を築こうとする自主的・実践的な態度を育てる。</p> <p>○児童生徒会執行部を中心に児童生徒全体が主体的に取り組むことができる活動の推進を図る。</p>
		計画	<p>〈生徒指導〉</p> <p>○児童生徒会執行部が中心となり、児童生徒主体で取り組む「校内あいさつ運動」を計画的に実施する。</p>
5	その他	目標	<p>○特別支援教育コーディネーター等の資質向上を図りながら、校内及び地域支援の充実を図る。</p> <p>○「主体的・対話的で深い学び」ができる授業実践につながるよう、ICT活用指導力の向上を図る。</p> <p>○コロナ禍でのPTA活動の在り方を振り返り、これからのPTA活動の活性化を図る。</p> <p>○学校評議員をはじめ保護者や地域関係者などに広く意見を求め、理解と協力を得て教育活動を推進する。</p> <p>○小学部から高等部において、それぞれの学部をつながりの中で、児童生徒自身が学校生活を振り返ったり見通したりして自分の成長を感じ取りながら主体的に学ぶことができるように、「キャリア・パスポート」の作成や活用を推進する。</p>
		計画	<p>〈教育相談〉</p> <p>○本校の児童生徒が学びやすい環境になるよう、校内支援の充実を図る。ケース会議やサポート会議等を効果的かつ計画的に実施するように努め児童生徒の適切な支援をつなぐ。また、日頃の授業や学級運営などで役立つ具体的な支援を提供したり、校内の児童生徒に関する相談への解決策を提案したりする。</p> <p>〈情報図書〉</p> <p>○教育用クラウドサービスの有用な活用や1人1台タブレット端末(iPad)をはじめとするICT機器の活用指導力の向上を目指し、教育用クラウドサービス活用に係る研修やICT機器の使い方等の講習会、教員のニーズに応じた有用な情報を発信する。</p> <p>〈総務〉</p> <p>○PTA各委員会主催の行事の企画・運営を通じて、PTA会員相互の直接交流の機会を増やすとともに、児童生徒や保護者のニーズに応えるべく、地域の専門的な人材を巻き込んだ余暇活動にもつながる楽しみのある活動を実施する。</p> <p>〈教務〉</p> <p>○各学部・学年のつながりを踏まえ、授業で作成しているプリント類や掲示物のコピー等を活用して、キャリア・パスポートの作成を進める。作成にあたり、特別活動の学級活動及びホームルーム活動を中心に教師が対話的に関わり、児童生徒が自己の成長を感じ取ることができるように、目標を考えたり、振り返ったりする機会を設ける。</p>

重点3

5 今年度の重点課題（学校アクションプラン）

令和5年度 となみ総合支援学校アクションプラン - 1 - <高等部>		
重点項目	学習活動	
重点課題	自立と社会参加を目指した学習単元の充実	
現 状	<p>高等部では、学習内容や生徒の実態に合わせて、それぞれの教員が工夫して教材を作成し、授業で使用している。教材を共有し学習単元や活動内容に合わせてお互いに活用しているところではあるが、一人一人の実態に応じるため、教材の種類や内容をより充実していくことが課題となっている。</p> <p>今年度は、これまで作成・蓄積してきた教材を、年間学習指導計画に合わせて、系統立てて3年間の学びが継続できるように教材の充実を図るとともに、卒業後の進路先を見据えた学習単元の内容の整理・充実を図りたい。</p>	
達成目標	年間学習指導計画（学習単元）の充実や生徒の実態に合わせた共有教材の授業での活用	
	教材の活用 一人1ケース以上	教材活用及び単元の充実のための会議6回
方 策	5月	年間学習指導計画に合わせて高等部教材フォルダ構成を整える。（教科担当）
	年間	<p>①現在高等部で保有している教材・教具や各自が作成した教材（指導案を含む）を使って授業を行い、教材フォルダを整理しながら加えていく。（プリント等はデータ、具体物は画像で保存）</p> <p>②教材を使って取り組んだ生徒の様子の情報交換をする。</p> <p>③教材の活用方法及び各単元の押さえるべき学習目標や内容について検討を行う。</p> <p>④③に基づいて教材及び単元の内容に工夫を加え①～③を行う。</p> <p>※②、③について、各学年で2回以上会議をもつ。（必要に応じて教科等グループの担当者も会議に加わる）</p>

（評価基準 A：達成した B：ほぼ達成した C：現状維持 D：現状より悪くなった）

令和5年度 となみ総合支援学校アクションプラン - 2 - <研修部>		
重点項目	学習活動	
重点課題	主体的・対話的で深い学びの視点からの教科における授業づくりについて	
現 状	<p>学校課題研究では、主体的・対話的で深い学びの視点からの教科における授業づくりに取り組んでいる。</p> <p>前年度は、学習指導要領の育成すべき資質・能力の3つの柱に沿った目標設定ができるよう研修を重ね、目標や内容を精選しながら授業づくりに取り組んだ。教師は、児童生徒が目標達成に向けて知識・技能を獲得していく姿やその過程の姿に注目できるようになり、児童生徒が考えたり選んだり伝えたりといった主体的・対話的な学びの姿により気付くことができた。今年度は、その児童生徒の学びの姿をさらに深め日常生活に生かせる力に繋げることができるよう授業改善に取り組んでいきたい。「深い学びにつながるポイント」を整理し、それらを活用することで更なる授業力の向上を図ることにつながると思う。</p>	
達成目標	授業研究を通じて得た「授業づくりのポイント」、「学びの姿図」、「深い学びにつながるポイント」を活用して授業を行い、自己の授業について肯定的な変容を感じた割合80%以上	
方 策	<ul style="list-style-type: none"> 各学部で2～4グループを編制し研究授業を行う。 グループで、授業シートや事後研修シートを活用し、授業で見られた児童生徒の姿について出し合い、さらなる学びにつながるための改善案を検討し、もう一度授業を行い、児童生徒の姿を確認する。 外部講師を招いて授業研究会を実施し、授業や事後研修会について助言を受ける。 グループや各学部で授業改善の成果と課題について話し合い、まとめる。 研修の度に、感想や学びを記録し、自身の実践に生かすように意識付ける。 研修期間の終わりに、アンケートを実施する。 	

（評価基準 A：達成した B：ほぼ達成した C：現状維持 D：現状より悪くなった）

令和5年度 となみ総合支援学校アクションプラン - 3 - <総務部>	
重点項目	その他
重点課題	児童生徒、保護者のニーズに応じたPTA活動の充実
現 状	<p>本校のPTAは、役員会と「総務、生活保健、地区、文化活動」の4つの委員会で組織されており、4つの委員会ではそれぞれに活動を企画・運営している。</p> <p>令和3年度から、コロナ禍に対応して、生活保健委員会主催の「奉仕活動」と文化活動委員会・地区委員会合同主催の「親子活動」を同日に行う「PTA学部別活動」を開催している。コロナ禍前とは違う形で活動を行ってきたが、保護者からは「良かった、楽しかった」などの声も聞かれている。また、対面で行うことにより、活動の隙間や活動後の保護者同士のコミュニケーションも活性化した。</p> <p>今後も、対面の良さを生かしながら、児童生徒や保護者、教職員を含め、PTA活動に参加した一人一人がやりがいや楽しさを感じられるようなPTA学部別活動を企画・運営したい。</p>
達成目標	<p>PTA学部別活動の充実</p> <p>学部別活動に参加の児童生徒・保護者の満足度80%以上（アンケートによる把握）</p>
方 策	<ul style="list-style-type: none"> ・保護者が参加しやすい時期・曜日等を検討し、開催日を決定する。 ・役員会等で、児童生徒が興味をもちやすく、親子で楽しく活動できる内容や参加の仕方を検討し、地域の人材や各種団体の中から講師を選定する。また、前年度の保護者アンケートを活かして企画・運営をする。 ・保護者が日程の調整をしやすいように、できるだけ早めに案内を出す。 ・当日の活動のイメージがもてるように、活動内容のイラストや分かりやすい説明、前年度参加者の「良かった、楽しかった」の声などを載せた案内チラシを作成し周知を図る。 ・実施後のアンケートにより参加者の満足度を調査する。 ・PTA広報誌「あしたば」や学校HPで活動の状況を公表し、参加できなかった会員も目に触れる機会を作る。

(評価基準 A：達成した B：ほぼ達成した C：現状維持 D：現状より悪くなった)